

タマゴタケモドキ *Amanita subjunquillea*

テングタケ科テングタケ属

概要

地方名	
傘の大きさ	小型から中型
形と色	傘　：表面はなめらかな橙黄色で、条線はない。 ひだ：白色でやや密 柄　：細長く中空。つばはない。
発生時期	夏から秋
発生場所	針葉樹林や広葉樹林などの地上に発生する。
その他	
症状	タマゴテングタケ様の中毒症状を示す。 食後 6 時間から 24 時間程度でコレラ様の下痢、嘔吐、腹痛、数日後から肝臓肥大、黄胆、胃や腸からの出血、その他、内臓細胞破壊が起こり死に至る場合がある。
毒性成分	アマトキシン類ほか
間違いやすい食用きのこ	キタマゴタケ（ひだが黄色であることから区別する）

詳細

1 特徴

(1) 毒性成分	(成分名) アマトキシシン類
	(構造式)
	(説明)
(2) 食中毒の型	
	(毒性成分の含量)
	(毒性発現機構)
(3) 中毒症状*1	タマゴテングタケ様の中毒症状を示す。 食後 6 時間から 24 時間程度でコレラ様の下痢, 嘔吐, 腹痛, 数日後から肝臓肥大, 黄胆, 胃や腸からの出血, その他, 内臓細胞破壊が起こり死に至る場合がある。
(4) 発症時間	
(5) 発症事例	(症例 1)
	(症例 2)
	(その他)
(6) 中毒対策	

2 毒性成分の分析法

(1)	(説明)
	(図解)

3 その他

諸外国での状況	
参考になる情報	

4 間違いやすい食用きのこ

1	一般名	キタマゴタケ
	学名	
	発生場所	
	発生時期	
	形態	ヒダが黄色を帯び, 傘のふちに条線がある。

引用・参考文献

1) その他の参考資料：

長沢栄史. 「フィールドベスト図鑑 14 日本の毒きのこ」(株) 学習研究社

編著者：奥沢康正，久世幸吾，奥沢淳治. 「毒きのこ今昔－中毒症例を中心にして－」(株) 思文閣出版